

秋の褒章 県内受賞者

秋の褒章受章者が2日付で発表された。県内からは、その道一筋に励んだ人に贈られる黄綬褒章4人、公共の利益に貢献した人に贈られる藍綬褒章2人の計6人が受章した。6人の歩んだ歴史や業績を紹介する。

真実追究 現場主義貫く

山内真樹さん(67)
公認会計士



監査・会計の専門家である公認会計士として約四十年。仕事上、疑問に感じた点は納得のいくまで徹底的に追及する。その姿勢は、駆け出しのころ勤めた国内大手の監査法人で先輩たちからたたき込まれた。

「数字は立派でも『空気が入って』(水増しされて)いたりするからね。うのみにはできない。よく現場に行きましたよ」。倉庫や工場に足を運び、在庫などを自分の目で確かめる。関係者に会って細部まで質問する。聞き取りや確認、比較を重ねることで、机に向かい、出された帳簿を広げるだけでは見えなかった

ものが、やがて見えてくるという。「事実を突き詰めていかなければ。仕事は堅くやらないと長持ちしない」と考える。京都市出身。沖縄生活は三十五年ほどになる。日本公認会計士協会常務理事(二〇〇四―〇七年)や同協会沖縄分会長(同)を務めたほか、県内の各種委員を歴任。税理士、ITコーディネーターの資格も持つ。

「数字は立派でも『空気が入って』(水増しされて)いたりするからね。うのみにはできない。よく現場に行きましたよ」。倉庫や工場に足を運び、在庫などを自分の目で確かめる。関係者に会って細部まで質問する。聞き取りや確認、比較を重ねることで、机に向かい、出された帳簿を広げるだけでは見えなかった

琉球大学で十月から、沖縄の観光業界の経営分析に関する講義を担当している。「学生たちはなかなか優秀。楽しいですよ」と目を細めた。(沖縄市胡屋7の6の52)